



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

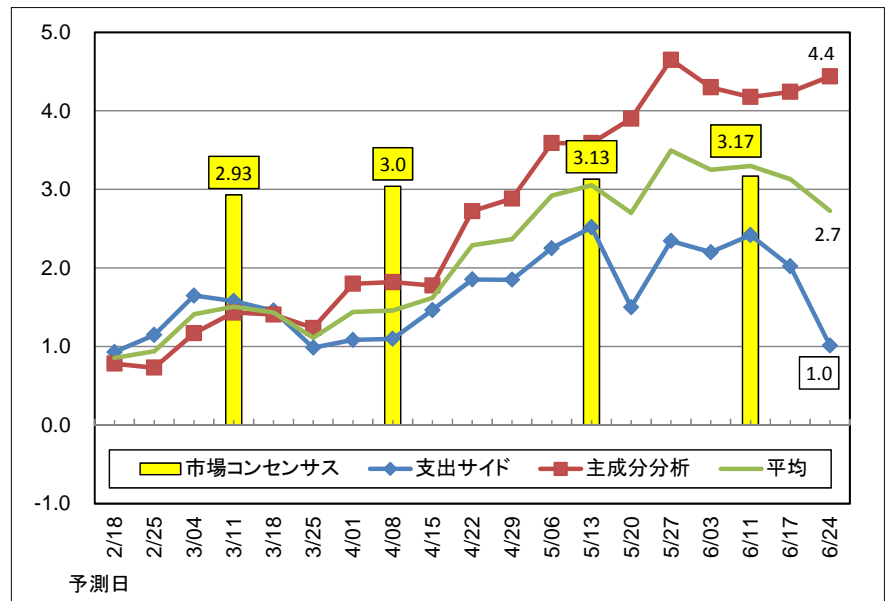
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年6月24日)

ポイント

- ▶先週は5月の貿易統計、4月の鉱工業生産指数(確報値)、第3次産業活動指数及び建設総合統計を更新。
- ▶4月の資本財出荷指数は前月比-5.3%と、6ヵ月ぶりのマイナス。速報値から大幅に下方修正。結果、4-6月期の実質民間企業設備の予測値は前期比-0.9%に下方修正された。
- ▶4月の公共工事は前年比15ヵ月連続のプラス。季節調整値は前月比3ヵ月連続のマイナス。この結果、4-6月期の実質公的固定資本形成の予測値は前期比+2.2%と小幅拡大にとどまっている。
- ▶5月は円安の影響もあり輸出は前年比+10.1%と3ヵ月連続のプラス。貿易赤字は1-3月期をピークに緩やかに縮小していこう。
- ▶今週のCQM(支出サイド)は、4-6月期の実質GDP成長率を前期比年率+1.0%と予測。先週から下方修正。一時的な景気の中だるみとなる可能性が高い。消費税率引き上げには不利な材料となる。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013年4-6月期(%, 前期比年率換算)



<4-6月期は一時的な景気の中だるみの可能性高まる：消費税引き上げには不利な材料>

先週は5月の貿易統計、4月の鉱工業生産指数(確報値)、第3次産業活動指数及び建設総合統計を更新。これらは民間企業設備、民間企業在庫品増減、政府最終消費支出、公的固定資本形成及び純輸出の予測に影響を与える。

4月の資本財出荷指数(確報値)は前月比-5.3%となり、6ヵ月ぶりのマイナス。速報値の段階(同+0.2%)から大幅に下方修正された。4月実績は1-3月平均比-4.1%となり、結果、4-6月期の実質民間企業設備の予測値は前期比-0.9%に下方修正された。建設総合統計によれば、4月の公共工事は前年同月比+11.3%となり、15ヵ月連続のプラス。季節調整値(APIR 推計)は前月比8.6%減少し3ヵ月連続のマイナス。この結果、1-3月平均比11.5%低い水準である。4-6月期の実質公的固定資本形成の予測値は前期比+2.2%と小幅拡大にとどまっている。

5月の貿易統計によれば、貿易収支(季節調整値)は26ヵ月連続で赤字となった。貿易赤字は前月比16.8%拡大したが、4-5月期平均は1-3月期平均比15.0%縮小している。5月は円安の影響もあり輸出は前年比+10.1%と3ヵ月連続のプラスとなっている。貿易赤字は1-3月期をピークに緩やかに縮小していこう。

純輸出は引き続き経済成長を支えるものの、民間企業設備や民間企業在庫品増減が弱いため民間需要はマイナス寄与となる可能性が高まってきた。このため、今週のCQM(支出サイド)は、4-6月期の実質GDP成長率を前期比+0.3%、同年率+1.0%と予測。先週の予測(+2.0%)から下方修正である。CQMで重視している支出サイドの予測は1%から2%の間で低迷している(景気の踊り場)。4-6月期は一時的な景気の中だるみとなる可能性が高く、同期の経済情勢を見て消費税率引き上げの最終議論が行われるがその政策運営は厳しくなるだろう。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690